

道北における地域教育支援の取り組み

—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

2011年11月

北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会

巻頭の挨拶

北海道教育大学副学長（旭川校担当） 八重樫 良二

大学は社会で活躍する人材養成を担って、学問研究と共に学生への教育を行っています。加えて今日、地域への社会貢献を果たすこともまた、大学の使命として大きく期待されている所です。教員養成系の大学として位置付けられる本学は、教育に関わって主にその指導者養成を目的に、各キャンパスが道内それぞれの地域の教育拠点として、その役割を果たしています。旭川校においては広く道北地方をカバーして各地域への教育支援、地域連携に取り組んできました。

その活動には学生ボランティアの派遣をはじめ、出前授業、公開講座やワークショップの開催など、色々な内容、方法があります。これらの活動は、必ずしも大学と教育委員会や地方自治体といったように組織同士の対応の中で行われるものばかりではありません。大学教員個別の専門性を教育現場の先生方の活動と結びつけることによって、そのニーズに応じているものもあれば、ゼミナール活動の一貫として他の教育的組織と連携が計られている事例など、個々人の結びつきによって行われているケースが多数あります。

この冊子は、教育支援、連携活動をめぐる様々な取り組みについて、その事例を集めて紹介するものです。地域教育連携の活動について、旭川校の各教員から任意に活動報告を受けて掲載しています。そのため、旭川校における全ての活動を網羅したものではなく、また活動内容の記載にもばらつきがありますが、教員個々人から発せられる情報の紹介を意図したものとしてご承知おきください。

学外の皆様には、大学が行っている教育支援への取り組みの実際をご理解いただけることと思いますし、学内関係者にとっても改めて互いの活動を知る事に役立つ事と思います。ささやかなものではありますが、この小冊子が、今後の地域の教育支援について考えるきっかけになれば幸いです。また、この場を借りて資料提供にご協力をいただいた教員の方々に感謝致します。これからも本学旭川校は道北の地に根ざした大学として、その役割が果たせるよう努めて参ります。皆様の御理解、御協力をいただけますよう御願い致します。

目 次

巻頭の挨拶

【解説】地域教育連携 報告シートについて	1
----------------------	---

報告シート

・レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる 自律型ロボット学習に関する実践研究	2
・第7回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア	3
・第1回U-16旭川プログラミングコンテスト	4
・利尻富士町 「平成23年度 夏休みチャレンジ教室」	5
・音楽科学生による地域の小規模校でのオペレッタ公演と演奏会	6
・中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会 「生物（特に野菜）育成全般に関わる実習と講義」	7
・平成23年度オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会（北見ブロック）	8
・はらぺこクッキング「～こねこね まるめて やきたてパン～」	9
・東川町における子育て中の保護者の方を対象とした料理教室	10
・北海道立総合研究機構での研究紹介「澱粉と脂質の加工特性」	11
・旭川ウェルビーイング・コンソーシアム 「植物の機能性を活用するワーキンググループ」	12
・旭川市地域連携アートプロジェクト 中原悌二郎賞関連ワークショップ 「つなげて めぐる アートの力」	13
・旭川市地域連携アートプロジェクト 「巨匠たちの饗宴」展 鑑賞プログラム	14
・旭川市地域連携アートプロジェクト 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム	15
・旭川市地域連携アートプロジェクト 造形まつり「工作玉手箱！ いろんな形 みつけちゃおう」	16
・東川町立東川小学校ボランティア	17
・旭川市青雲小学校ボランティア	18
・平成23年度北海道国際理解教育研究大会上川旭川大会大学部会	19
・旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「教育」公開シンポジウム ー学生が地域で活動することの意義を考えるー	20
・「平成23年度 道北地域における学校支援プロジェクト」による 『枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」支援	21

・旭川市科学館(サイパル)科学探検広場 2011 ブース参加	22
・富良野市立山部小学校におけるインターンシップ	23
・北海道鷹栖養護学校全体研修会講師	
「北海道鷹栖養護学校特別支援学校の『授業づくり』について考える」	24
・北海道士別市療育講演会「発達障害の子どもの『問題行動』を考える」	25
・北海道特別支援教育研究協議会道北地区研究大会講演	
「社会参加と自立を促す授業改善」	26
・“おとなの学校”「北海道だからできる、エネルギーの地産地消？」	27
・岩見沢市ふるさと少年少女環境教室	28
・環境・エネルギーセミナーin 岩見沢 2012 での研究報告	29
・あさひかわ食育セミナー 実践！！今日から始める家庭の「食育」	30
・平成 23 年度旭川市小・中学校教育研究大会 国際理解教育研究部大会	31
・旭川ウェルビーイング・コンソーシアム-市民のための公開講座	
「家庭における事故防止と応急処置」	32
・旭川ウェルビーイング・コンソーシアム-健康保養フォーラム	
「子どもの未来のために」	33
・学習支援ボランティア団体「ゆずりは」	34
・学力向上支援実践プロジェクト「旭川校による小中学校支援と 確かな学力を育成するクロスオーバープログラムの共同開発」	35

付属資料

・学生ボランティア事業（概要）	39
・平成 23 年度 授業公開講座一覧	42
・学校訪問受入／出前授業（22. 10. 1～23. 9. 30）	43
・平成 23 年度 審議会等派遣一覧	44
・平成 23 年度 講演会講師・助言者等派遣一覧	46

【解説】地域教育連携 報告シートについて

このシートは、北海道教育大学旭川校の教員が主体として、または橋渡し役として行っている地域教育連携活動をまとめたものです。内容は、自治体や教育関係団体と本学教員が共同で行っている事業、本学教員による研修会・講演会、学生の派遣事業など多岐にわたっております。

なお、本報告は教員の自主申告に基づいており、必ずしも現在行われている地域教育連携事業のすべてを網羅したものではありません。また、内容が一部重複するところもあります。

シートの見方

各項目には以下が記載されています。

テーマ：地域連携事業、研修会の名称

日時（期間）：事業が行われた日時もしくは期間

場所：事業が行われた場所

参加人数：事業に参加した人数の総計

担当者：事業にかかわった本学教員及び関係者

概要：事業のおおよその内容

成果：事業がもたらした成果

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	レゴ・マインドストームのレンタルシステムによる自律型ロボット学習に関する実践研究
日時 (期間)	平成23年9月－平成24年3月
場 所	南富良野中学校
参加人数	南富良野中学校第二学年 24 名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠、南富良野中学校 小泉匡弘
概 要	<p>新学習指導要領において、中学校技術家庭科技術分野の内容は大きく変更された。その中でもエネルギー変換に関する技術や計測制御に関する技術などこれまで選択の枠組みで行われてきた内容を必修で学習させることになった。現職教員のこうした変更への対応を支援する一つの方向として、技術教育講座ではレゴ・マインドストームを貸し出すとともに、教員と連携して担当校や学級に則したカリキュラムの開発を行っている。本事業は昨年引き続き南富良野中学校で実施するものである。昨年度の反省をもとに授業をスタートさせた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フローチャートなどを用いプログラムに関する基本的な学習 2. レゴによるロボットコンテストの紹介とレゴを用いた機構学習 (本学教員による) 3. 実際に5つの課題にチャレンジする <p>といった学習を展開する。</p>
成 果	<p>昨年の取り組みを本年度7月23日に開催された第4回科学技術におけるロボット教育シンポジウムにて発表した(小泉)、またこれを11月18・19日にアブダビ/UAEで開催される4th International Symposium on Robotics in Educationで発表する。この際、現在進行中の授業についても公表する予定である。さらに、多くの学校で実践できる枠組みを模索する。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	第7回上川管内中学生創造ものづくり教育フェア
日時(期間)	平成24年1月開催予定
場 所	旭川市立北星中学校
参加人数	管内中学生 約40名、中学校教員約20名、本学学生約20名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠(同実行委員会実行委員長)、川邊淳子(副実行委員長)
概 要	<p>本事業は毎年1月に技術・家庭科における学習内容に関する上川管内の中学生の競技会である。加えて、教員の教科指導や評価の研鑽の機会として位置づけられ、本年度で7回目の実施となる。競技会は家庭分野の包丁名人(あなたのためのハンバーグランチ)、技術分野の木工の匠(市販キットを用いた木工作品製作)およびロボットコンテストからなる。すべての競技は毎年行われる全国中学生創造ものづくりフェアにおける競技大会の規定を参考に企画され、授業の内容に即したレギュレーションを定め行っている。ロボットコンテストでは10月に事前講習会を本学教員が行っている。講習会において本学学生の製作したロボットを参考にデモンストレーションを行う。フェア当日には学生が全面的にサポートすることにより、現職教員や中学生とのコミュニケーションを図る。加えて、イベントの運営方法を学ぶ</p>
成 果	<p>本学教員と中学校教員との共同作業により両者のコミュニケーションが確立される。学生にとって教育実習以外の活動で現職教員と共同作業を通じて良好な人間関係を築くことができる。また、中学生が競技会に参加することで、ものづくりの喜びを実感し、技術・家庭科の学習成果を発揮する機会をもたらせる。加えて、技術・家庭科の学習内容を社会に周知する機会となる。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	第1回 U-16 旭川プログラミングコンテスト
日時 (期間)	平成23年9月10日
場 所	旭川市科学館
参加人数	管内中学生 約20名、工業高校および工業高等専門学校学生20名
担当者	北海道教育大学旭川校 渡壁 誠 (同実行委員会委員)
概 要	<p>本事業は旭川 ICT 協議会から発案された事業であり、パソコンが好きな中高校生に、プログラムの作成やコンピュータで絵を書くことなどを通して、IT に対する興味やものづくりの楽しさを感じてもらい、将来の IT エンジニア・IT クリエイターの育成を目的としている。コンテストはプログラミングの成果を競う競技部門とデジタルコンテンツ (パソコンで描いた絵やウェブページなど) の出来を競う作品部門からなる。8月に2日日程で2回、競技部門に関する講習会が旭川市科学館において旭川工業高等専門学校および旭川工業高校の生徒によって開催された。また、コンテストまでの期間で学校からの要請によって出前講習会も実施された。本学教員は中学校教員との連絡調整を主に行った。</p>
成 果	<p>北海道新聞、北海道経済に関連記事が掲載された。ICT 分野で中学生を対象としたコンテストは全国でも少ない。パソコン好きの中学生に腕試しの機会を提供するとともに、旭川工業高等専門学校生・旭川工業高校生に活躍の場を提供することができた。来年度以降も継続される予定であるので、本学学生の貢献を考えるよい機会となった。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	利尻富士町 「平成 23 年度 夏休みチャレンジ教室」
日時 (期間)	平成 23 年 8 月 8 日～平成 23 年 8 月 12 日
場 所	鴛泊小学校
参加人数	<u>小学生 67 名</u> <u>1 年生 15 名</u> <u>2 年生 16 名</u> <u>3 年生 15 名</u> <u>4 年生 4 名</u> <u>5 年生 8 名</u> <u>6 年生 9 名</u> <u>中学生 9 名</u> <u>1 年生 8 名</u> <u>2 年生 1 名</u> のべ 380 名 (上記参加者 76 名 × 5 回)
担当者	三浦 裕
概 要	<p>3 年連続開催となったこの事業は、長期休業期を利用し、「短期集中講座を実施することにより、将来教員をめざす学生とのふれあい、自然とのふれあいを持ち、学ぶ意欲のある子ども達に対して、安全・安心な居場所を設け、学習機会や様々な体験を提供する」ことをねらいとした事業である。</p> <p>利尻富士町からの企画・運営支援要請や学生派遣の要請に応えるべく調整を重ね、7 名の学生派遣を決定した。</p> <p>参加児童・生徒を 1 年生～6 年生までの 6 クラス、中学生の 1 クラスに編成し、各教室で本校学生らがクラス担任として 5 日間の日程で学習の指導を行った。</p> <p><u>21 年度参加児童生徒 58 名</u> <u>派遣者 (要請) 学生 4 名</u> <u>22 年度参加児童生徒 74 名</u> <u>派遣者 (要請) 学生 5 名 教員 2 名</u> <u>23 年度参加児童生徒 76 名</u> <u>派遣者 (要請) 学生 7 名</u></p>
成 果	<p>教育委員会社会教育主事らが副担任となっているため、サポート体制も充実し、学生個々の独創性も尊重された事業であった。クラス間交流の場面では参加者の年齢差の対処に戸惑う場面も見受けられたが、子どもの発達に応じた指導法等、今後の実践に役立つ事業参加であった。</p> <p>毎年、学生を心待ちに参加してくれる参加者もおり、地域に根付いた取り組みであることから、今後も継続してほしい事業である。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	音楽科学生による地域の小規模校でのオペレッタ公演と演奏会
日時 (期間)	平成23年8月23日 演奏会 音楽科2年生 平成24年2月23日 オペレッタ楽科 2年生・3年生
場 所	志比内小学校 (平成23年度)
参加人数	平成23年8月23日 学生 10名 観客 約40名 平成24年2月23日 学生 20名 観客 約100名 (予想数、地域住民)
担当者	石田 久大 杉江 光 菅野 道雄
概 要	<p>平成18年度から始まった、新カリキュラム・音楽分野専門科目演習「総合的な音楽活動の実践」では、近郊小規模小・中学校においての、演奏会、並びにオペレッタ公演を目標としている。特に僻地校など、地域的に学校で生の演奏に触れることの少ない小・中学生に、学生による演奏を聴いてもらい互いに心の交流をしてもらうことをねらいとしている。</p> <p>合唱や器楽を中止とした演奏会は、2年生のみで行われている。プログラムには開催校の校歌や、普段の子ども達の愛唱歌などを盛り込み、子ども達と一緒に演奏するなどして触れあいを大切にしている。</p> <p>オペレッタは、アイヌの民話を題材としており本学の教員によってつくられたオリジナル作品を上演する。(題材 金の子犬 銀の子犬 二橋潤一作曲)</p> <p>オペレッタ上演については音楽科の2年生3年生合同で制作を行っている。これまで、平成20年度は富良野市立布部小学校 21年度は旭川第2小学校、22年度は富良野宇文小学校などで上演してきた。23年度は志比内小学校で、4回目の公演となる。衣装・道具、背景画などは学生の手作りである。</p>
成 果	子ども達が学生の演奏に真剣に聴き入る姿や、一緒に演奏し子ども達と感動をわかり合うことにより、学生達の教育的な資質をはぐくむための一助となっていると思われる。また、大学と地域の小中学校との連携を密にしてゆくためにも役だっていると思われる。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	<p>中学校技術・家庭科担当教員を対象としたスキルアップ研修会 「生物（特に野菜）育成全般に関わる実習と講義」</p>
日時（期間）	平成23年9月28日
場 所	北海道教育大学旭川校・農場
参加人数	上川管内技術・家庭科研究会に所属する中学校教員10名
担当者	佐々木 久視<講師>・芝木 邦也・渡壁 誠・川邊 淳子
概 要	<p>この事業は、平成17年度に始まったもので、今年度で7年目となる。</p> <p>上川管内技術・家庭科研究会の先生方を対象に、技術分野と家庭分野の2本立てで、教員としての指導技能の向上および評価観点の勉強会として、大学が基本的には主体となり、上川管内技術・家庭科研究会の先生方と、企画立案・実施を行っている研修である。</p> <p>当初はその講師として、上川地区技能士会の協力をいただいていたが、新学習指導要領の告示、また先生方の研修ニーズの多様化、さらに、単なる指導技能向上だけでなく、従来からの指導方法の基礎・基本の再確認などを目指し、その講師陣も地域で活躍するその道のプロの方々にもご協力をいただくかたちとなってきている。</p> <p>今年度は、技術分野において、来年度から始まる中学校の新教育課程で必修内容となる「生物育成」に関する内容として、特に野菜栽培について、大学に非常勤講師で来られている、元北海道教育大学旭川校の佐々木久視先生に講師を依頼した。研修会に先だって、現場の先生方の指導上の問題点や悩みをお尋ねし、講義内容としては、畑の作り方・播種・定植・生育管理・収穫などを、実習内容としては、耕耘機・畑起こし・整地・畝たて・株間決め・施肥・支柱・整枝・誘引の仕方などを研修会内容として組み込んだ。</p>
成 果	<p>最初は地域貢献プロジェクトの一環として、年度を区切って限定的に行う予定ではあったが、今では、現場の先生方の年間研修計画の中にも入れていただき、大学側から提供するものばかりでなく、先生方の研修ニーズを取り入れたかたちで、毎年講師の選定から研修会の内容構成まで、先生方のアドバイスもいただきながら検討を行うに至っている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	平成23年度オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会（北見ブロック）
日時（期間）	平成23年8月5日
場 所	北海道北見緑陵高等学校
参加人数	オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会（北見ブロック）に所属する 教員7名
担当者	川邊 淳子
概 要	<p>オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会（北見ブロック）において、毎年行われている研究会の実技研修の講師として招かれ、参加したものである。</p> <p>高等学校家庭科においては、授業時間の5/10以上を実験・実習に当てるように、学習指導要領における指導上の注意事項としても記載されている。調理実習や被服実習、幼児体験や高齢者体験など、実習面においては、様々な有効な教材が検討されてはきているものの、生活を科学的な目で見極められる実践力を育成する、実験に関する有効な教材は、なかなかないのが実情である。特に衣生活においては、繊維の燃焼実験や洗剤の働きに関する実験はよく行われているが、それ以外の実験教材については、なかなか実施されていないのが実情である。</p> <p>実技研修として、北見緑陵高の駒津順子教諭の「50分で可能な染色実習」と併せて、「柔軟仕上げ剤の働きを知る実験」の提案を行った。最近様々な種類の柔軟仕上げ剤が発売されてきているが、洗剤と何が違うのか、また柔軟仕上げ剤にはどのような働きや効果があるのか、柔軟仕上げ剤の働きを十分発揮させるためには、どのような条件で用いればよいのかなど、身近な道具や素材などを用い、教材づくりのヒントや実験条件の調整などについて、原理の部分と最新情報を併せた講義も織り交ぜ、体験的に学んでいただいた。</p>
成 果	<p>単年度実施ではあったが、大学などでの研究成果を現場教員の目を通して検討していただくのは、教材や授業づくりの視点共有に双方つながるよいきっかけであったと思われる。家庭科で取り扱う内容は、生活や社会の変化と共に、教科書に書かれているものですら常に変化する場合もある。今後も積極的に行っていきたい教育支援活動である。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	はらぺこクッキング「～こねこね まるめて やきたてパン～」
日時 (期間)	平成23年8月8日
場 所	北海道教育大学旭川校・調理実習室・食生活学実験室 (N115)
参加人数	旭川市内の小学生 (3～6年生) 約20名
担当者	生活・技術教育専攻学生 (家庭科教育第2ゼミ)・川邊 淳子
概 要	<p>この講座は、平成20年度に始まったもので、今年度で4年目となる。ゼミの学生が主体となって、企画立案・案内・実施までを行う、食をテーマとした活動である。対象者は旭川市内の小学生を対象としている。</p> <p>基本的には、旬の食材が手に入りやすい夏に、年に一度のペースで行っているものである。第1回目は、“こねる”という調理動作に着目して小麦粉などをこねることでうどんを作り、第2回目は、旭川産の“トマト”に着目してピザやサラダなどを作った。第3回目は、学生自らが野菜を大学の農場で栽培することによって、ただ料理を作るだけでなく、その野菜の育ちから栽培体験も含めて、採れたて野菜を用いた夏野菜いっぱいのカラフルカレーを作った。第4回目の今年度は、道産小麦に着目し、パンを生地作りから始め、牛乳やリンゴを使ったジャムづくりにも挑戦した。平成21年度だけは、お正月のお餅つきやお雑煮づくりといった食文化の伝承をテーマとして、お正月はらぺこクッキングとして年末にも実施した。</p> <p>対象としては、基本的には旭川市内の4年以上の小学生である。開催場所は、大学以外にも市の公民館や小学校を利用することもあるが、その開催場所に近い小学校を中心に、学生自らがチラシなども作成し広報にあたっている。</p>
成 果	<p>元々は、子どもと関わるのが大好きな学生たちが、自らが将来教師として教壇に立つために必要な力を育むことを目的として始めたものではあった。しかし、最近では、この取り組みを楽しみにして連続して参加してくれる子どもたちも増えて来ており、少しずつではあるが、地域に根づきつつある活動であると実感してきている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	東川町における子育て中の保護者の方を対象とした料理教室
日時 (期間)	平成23年10月20日
場 所	東川町保健センター・調理室
参加人数	子育て中の保護者約10名
担当者	川邊 淳子
概 要	<p>この教室は、平成18年度に始まったもので、今年度で6年目となる。東川町内の幼児センターに来られている、子育て中の保護者の方々を対象として、センター職員の方の依頼によって始まったものである。子育て支援を目的としながら、食を通じて子どもたちや健康との関わりについて、体験的に学んでいただくことを目指し行っている。今までの主なテーマは、① エコクッキングにトライ、② 野菜をおいしくいただきます、③ 秋の味覚(サンマ・きのこ・根菜)をいただきます、④ スパイスを上手に使うカレーパーティー、⑤ 米粉DEアジアン、⑥ 楽しい、うれしい、懐かしい給食メニュー、であった。</p> <p>基本的には、テーマとしてはこちらからの提案で、主催者との話し合いで決定した後、企画立案を行う。講座の中心は調理実習であるが、調理実習では子どもが食べても大丈夫な安心・安全な食材を必ず取り入れ、さらに子育てに忙しくともまた料理が苦手な人でも、簡単かつ楽しく自宅でもできることを心掛けるようにしている。また、保護者の方々へのエールを送ることや、食を通じた親子や家族でのコミュニケーションの大切さをお話することにも配慮している。調理実習中は、基本的には託児をすることで、保育者の方々は子どもたちと分かれて関わってもらうが、場合によっては一緒に参加も可能としている。試食は、子どもたちも一緒に食べることになっている。</p> <p>なお、参加者募集は、東川町内広報誌で行っている。</p>
成 果	最初は1回だけの予定であったが、今では毎年開催となったものである。講座で取り上げた内容を、参加者の方々がすぐ自宅で実践していただけることも、担当者としては励みであり、企画を考えることから楽しみなものとなっている。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	研究紹介「澱粉と脂質の加工特性」
日時 (期間)	平成23年8月18日
場 所	北海道立総合研究機構農業研究本部 中央農業試験場
参加人数	数名
担当者	伊藤 友美
概 要	<p>旭川地域はじめ上川支庁は農業生産が豊富であり、それを研究面に生かすために、昨年度から農業試験場などへ出向いて挨拶を兼ねて研究紹介を行っている。</p> <p>今回は、中央農業試験場において、打ち合せ、意見交換などのため研究紹介を行った。研究内容を知って頂き、協力できる分野やテーマを見出だし、地域に根付いた研究を進める。</p> <p>農業試験場は、直接農業に結び付く分析などが多く、基礎研究までいたらないため、高等教育機関と連携して農業の発展に寄与する。</p>
成 果	地域の農産物を使って調理加工を科学的な面から研究し、調理科学を通して地域食品産業に貢献する。しいては食育など教育へつなげていく。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム (AWBC) 植物の機能性を活用するワーキンググループ
日時 (期間)	2カ月に1回開催
場 所	H I ・ R O ・ B A
参加人数	20名前後
担当者	伊藤 友美
概 要	<p>須田先生の紹介で昨年9月より設立したAWBCに参加している。</p> <p>この趣旨は旭川の4大学1短大1高専が中心となり地域の研究期間や産業界、住民および行政と協働して、圏域住民の健康（ウェルビーイング）の達成と、地域資源に根ざした居住・生活環境、農畜産・食品加工製造、健康保養・観光などを振興することを目的としている。</p> <p>旭川地域はじめ上川支庁は北海道の中にあっても有数の農業生産規模を誇っている。また自然に恵まれることから野生の植物が豊富であり、さらに天然林を含めた森林にも恵まれている。こうした食物となる農業生産物および健康保養の地域資源に恵まれる地域の優位性がある上に、高等教育機関で研究を行っている。</p> <p>その中でも特に旭川地域において、植物の機能性成分についての研究、生産を行っているグループが集まり、2カ月に1回の会合で情報交換、共同研究の可能性について議論している。</p>
成 果	<p>学術分野の発展と地域研究期間の振興にとどまらず、地域に在住する人々の県境の維持増進へも効果が波及することが期待される。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 中原悌二郎賞関連ワークショップ 「つなげて めぐる アートの力」
日時 (期間)	平成23年9月14日～10月1日
場 所	旭川市内・上川地区中学校 北海道教育大学旭川校
参加人数	参加生徒約100名 指導等参加者26名 (アーティスト1名、旭川市彫刻美術館館長・職員・学芸員5名、道立旭川美術館館長・学芸員2名、中学校教員8名、教育大学教員3名、教育大学学生7名)
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>旭川市彫刻美術館が主催する中原悌二郎賞の受賞アーティストとともに旭川市内、上川管内の中学校美術部生徒がワークショップを行い、生徒の鑑賞表現能力向上を目指すプログラムである。</p> <p>2011年度中原悌二郎賞受賞アーティストである小泉俊己氏監修のもと、氏のシリコンチューブを使用した作品同様、シリコンチューブとジョイントを使用した作品を美術部ごとに制作。完成した作品を10月1日に北海道教育大学旭川校体育館に持ち寄り、それぞれを結合した大型の作品を氏とともに制作、インスタレーション展示と鑑賞を美術部からの制作を通しての感想や氏の講話も交えながら行った。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 参加生徒はアーティストとともに現代アートに触れながら制作体験をしたことにより、美術表現の豊かさを知ることができたとともに、そこに込められた作者の意図について見つめる視点を得ることができた。 ・ 複数の学校が持ち寄った作品をつなぎ、一つの大きな作品をつくることを通して、学校間の交流が図れた。 ・ 地域連携の為の大学施設の活用が図れた。 ・ 旭川市の事業である中原悌二郎賞と連携した教育プログラムとして実施が為された。 ・ 運営に学生が携わることによりワークショップを活用した教育活動に対する実践的なスキルアップが図れた。 ・ ワークショップに対する企画運営方法の合理化が進んだ。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 「巨匠たちの饗宴」展 鑑賞プログラム
日時 (期間)	平成23年8月20日、21日、27日、28日 (全4日)
場 所	北海道立旭川美術館
参加人数	参加生徒延べ262名 指導者延べ22名 (旭川美術館学芸委員2名、中学校教員10名、教育大学教員2名、教育大学学生8名)
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>旭川美術館が企画する展覧会の作品を対象とした児童生徒の鑑賞能力向上を目指す学習プログラムである。</p> <p>旭川市内・周辺郡部中学校美術部の生徒延べ262名が旭川美術館企画展「巨匠たちの饗宴」展の作品をプログラムに沿って鑑賞した。8月に全4回実施したこの鑑賞プログラムは、道立旭川美術館学芸員、旭川市内中学校美術科担当教員、北海道教育大学旭川校教員及び学生の三者が協力開発し、ギャラリートーク、アートゲームの二つの鑑賞方法によって構成されている。生徒は所属中学校の教員による引率のもと美術館に参集。美術館学芸員、中学校教員、大学教員とともに黒田清輝、藤田嗣治、上村松園、小野竹喬の作品を見ながら、それぞれの作品から得た感想や意見を基に対話を進める鑑賞を、また、学生のナビゲートのもと、気に入った作品を探し、その理由や感想をカードに記していくアートゲームを行った。二つの鑑賞を終えた生徒はフリー鑑賞も楽しみながら各回2時間、他校の美術部員との交流を交えながら活動した。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・参加生徒においては作品の見方や考え方が深まり、自ら進んで鑑賞しようとする姿が見られるようになった。 ・本鑑賞プログラムに例年参加している生徒においては、回を重ねることによる学習の積み上げが見られた。 ・鑑賞による内省を促すゲームを学芸員とともに学生が開発し、学習効果を発揮した。 ・参画する組織による一層柔軟な協力と運営の合理化により、無駄なく且つゆとりのあるプログラムが実現した。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 旭川市立彫刻美術館巡回展出前授業プログラム
日時 (期間)	平成23年8月18日～12月20日
場 所	旭川市内小学校・中学校・盲学校
参加人数	参加児童生徒延べ810名 参加保護者若干名 指導等参加者12名(彫刻美術館学芸員2名、小中学校教員5名、教育大学教員1名、教育大学学生4名)
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	<p>彫刻美術館が従前より取り組みつつも期待する地域の美術文化振興に結び付きにくかった市内小・中学校への彫刻作品貸出巡回展を有効活用するための鑑賞プログラムである。本プログラムは、市内小中学校教員、彫刻美術館学芸員、事務職員、教育大学教員および学生により作成されたもので、全体ガイダンス、対話型鑑賞、体感型鑑賞によって構成されており、それぞれに鑑賞者の発達に応じた活動案を用意している。</p> <p>平成23年度は、市内11の小中学校、盲学校の児童生徒を対象に実施される。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 参加児童生徒の活動の様子、事後アンケートの結果、参加教員からの感想などから参加者の満足度が高く、彫刻の鑑賞学習に対する意欲の向上、美術館及び美術作品への関心の高まりといった学習効果が見られた。 ・ 学校参観日での出前授業実施により保護者の参加が見られた。 ・ 子どもの発達に応じたプログラム開発、整備が進んだ。 ・ 活動案づくり、鑑賞授業の実施を通じた学生の実践力向上が図れた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市地域連携アートプロジェクト 造形まつり「工作玉手箱！ いろんな形 みつけちゃおう」
日時 (期間)	平成23年7月30日、31日
場 所	旭川市彫刻美術館、北海道立旭川美術館
参加人数	参加者約4000名 スタッフ26名（旭川美術館学芸員・職員3名、彫刻美術館学芸員2名、アーティスト2名、小中学校教員14名、教育大学教員2名、教育大学学生4名）
担当者	八重樫 良二、南部 正人、名達 英詔
概 要	道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館を会場に、複数のワークショップを児童、生徒のみならず、広く一般の市民に向けて道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館を会場に提供し、地域文化の振興と教育の底上げを図ろうとするものである。本プログラムは、道立旭川美術館学芸員、旭川市彫刻美術館学芸員、旭川市および上川地区美術科担当教員、北海道教育大学旭川校教員及び学生の四者に加え、「旭川市彫刻フェスタ」実行委員会とも連携し開発。旭川美術館会場では、旭川美術館から2つ、美術科担当教員より5つ、教育大学より3つのワークショップブースを、彫刻美術館会場では、彫刻美術館および彫刻フェスタ実行委員会よりアーティストを招聘したワークショップブースを2つ、計12のワークショップブースを設置し、二日間にわたって開催。参加者はおのこの取り組みたいブースを選びながら、それぞれに作品を制作した。事前に旭川市内、上川地区のすべての小中学校の児童生徒にチラシを配布するとともに北海道新聞による広告がなされたこともあり、開催当日は旭川市内・周辺地域のみならず、札幌など遠隔地からの参加も見られ、多くの来場者を得ることができた。
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校児童や保護者をはじめ、幅広い世代に対して造形活動に親しむ機会を効果的に生み出すことができた。 ・ 地域に開かれた美術館としての活用と周知がはかれた。 ・ 本プログラムの周知方法とその効果について、参加状況から概要がつかめた。 ・ 学芸員、教員、学生等、それぞれの立場からのアイデアを活かしたプログラムを実践できた。 ・ 初めての取り組みである「造形まつり」に対して、運営方法の要点を実践的に探ることができた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	東川町立東川小学校ボランティア
日時 (期間)	平成23年6月2日～平成24年3月31日
場 所	東川町立東川小学校
参加人数	16名 (教育発達専攻教育学分野4年次学生)
担当者	須田 康之
概 要	<p>東川小学校に、将来小学校の教員を志望する学生を派遣し、少人数指導実施による個別支援の充実を図る手伝いをしている。</p> <p>月曜(5名)、水曜(6名)、木曜(5名)の3グループ編成をし、週3回学校を訪問することになる。3・4時間目の授業にTTとして学級に入り、少人数指導、個別指導の補助を行う。その後、給食、清掃、昼休みのなかで、児童に対して必要な指導と関わりを行っている。</p>
成 果	<p>学生においては、学校教育の現状についての理解を深めるとともに、児童理解の能力や指導方法についての能力を高める機会となっている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市青雲小学校ボランティア
日時 (期間)	平成23年5月1日～平成24年3月31日
場 所	旭川市青雲小学校
参加人数	13名 (教育発達専攻教育学分野3年次学生6名、2年次学生7名)
担当者	須田 康之
概 要	<p>青雲小学校の特別支援学級1組、2組、3組に、学生を派遣している。前期は、2年次学生が月曜の午前、3年次学生が木曜日の午前の訪問であった。各学級の先生方の指導のもと、知的障害、不登校、発達障害を持つ子どもとのかかわり、発達支援、児童理解について学んでいる。運動会(5月29日開催)では、実施に際してのお手伝いも行った。</p>
成 果	<p>学校側からも、学生たちが頼られる存在となっており、教育支援をサポートできる一員とみなしていただけるようになっている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	平成23年度北海道国際理解教育研究大会上川旭川大会大学部会
日時(期間)	平成23年10月7日
場所	旭川藤女子高等学校
参加人数	6名(うち留学生3名、本学学生・院生3名)
担当者	小室直人(代表) / 大橋賢一(司会) / M・ラフェイ(コーディネーター)
概要	<p>留学生によるテーマセッションを行った。テーマを「教員志望者にとっての留学のあり方」とし、「教員志望者にとって、留学することのメリットはどのような点にあるか、またそのメリットを自覚することで、どのような教員なろうと心がけ、活動するようになったか、ということなどを、議論を通して深めることを目的とする」というねらいをたてた。</p> <p>当日のプログラム、並びに参加者は以下のとおりである。</p> <p>はじめにー簡単な自己紹介</p> <p>I 留学の目的について</p> <p>II 留学と就職とのかかわりについて</p> <p>まとめー教員として/教員希望者として異文化を理解するということー</p> <p>参加者：</p> <p>日本人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●植木孝洋(国語科大学院生1年・遼寧省沈陽一年留学) ●幅崎志織(社会科学部4年・黒竜江省ハルビン一年留学) ●松田(数学科学部4年・アラスカ州アンカレッジ一年) <p>外国人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高楊(国語科大学院生1年・遼寧省沈陽師範大学出身) ●張効娟(国語科大学院生1年・遼寧省沈陽師範大学出身) ●マーティン(国費外国人留学生(教員研修生)・ケニア高校教員(情報))
成果	道内各校種の先生方に対し、本学の留学に対する考え方を通知することができたと同時に、教員志望の学生にとって、留学がどれほど有意義であるかを示すことができたと思う。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム「教育」公開シンポジウム ～学生が地域で活動することの意義を考える～
日時 (期間)	平成23年6月5日
場 所	HI・RO・BA (旭川市4条買物公園/まちなか交流館2階)
参加人数	40人程度
担当者	大橋 賢一／高橋 亜希子
概 要	<p>以下の題目で、シンポジストとして大橋並びに高橋が発表した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●大橋：北海道教育大学の地域にいきる教育 ～北海道教育大学旭川校地域連携フォーラムを中心に～ ●高橋：米国ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニング <p>全体のテーマ「学生が地域で活動することの意義」について、それぞれの方 面から説明があったが、上記二人については、それぞれ、本学ならびに、ポ ートランド州立大学における学生と地域との連携について紹介し、その成果や課 題等を提起することができた。また、上記のシンポジウムについて、大橋は北 海道新聞夕刊（2011.6.24）の記事に「はしつくす」と題して紹介をした。</p>
成 果	<p>大学生にとっての地域連携の重要性を周知することができたと思う。また一 方で、地域にとって、学生の活動を受け入れることの難しさを再認識するこ とができ、今後の課題が明確になったと思う。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	「平成 23 年度 道北地域における学校支援プロジェクト」による『枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」支援																				
日時 (期間)	平成 23 年 9 月 30 日～10 月 3 日																				
場 所	北海道枝幸町小中学校 10 校																				
参加人数	学生 6 名 3 日間のべ 18 人、教員 2 名 3 日間のべ 6 名 児童生徒参加 のべ 300 名																				
担当者	小出 高義、南部 正人																				
概 要	<p>本事業は、枝幸町との協力協定に基づき、枝幸町いじめ対策連携プロジェクト「大学生フレンドシップ事業」を支援したものである。学生は枝幸町小中学校 10 校にグループ毎に配属されプログラムを実施した。その内容は、配属校設定プログラムと学生提供プログラムからなる。配属校設定プログラムは学校行事支援、授業 TT、給食指導、休み時間交流等である。また、学生提供プログラムは、所属専攻分野の専門性を生かしたもので、大学教員と共同し、配属校と事前打ち合わせを行い、題材開発し、提供した。内容は以下の通りである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 45%;">グループ名</th> <th style="width: 15%;">人数</th> <th style="width: 35%;">プログラム名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>体育グループ A</td> <td>2</td> <td>ニュースポーツ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>体育グループ B</td> <td>1</td> <td>ニュースポーツ</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>美術グループ A</td> <td>2</td> <td>感光用紙を使った造形遊び</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>美術グループ B</td> <td>1</td> <td>感光用紙を使った造形遊び</td> </tr> </tbody> </table> <p>事業実施にあたっては、枝幸町教育委員会と本校が運営分担を行った。枝幸町教育委員会が、配属校との調整、参加学生の移動（枝幸町と旭川校間、配属校と宿泊場所間）等を行い、本学が提供プログラムの開発、実施、宿泊費・用具材料等の負担を行った。なお、本事業は 4 年目の実施となる。</p>		グループ名	人数	プログラム名	1	体育グループ A	2	ニュースポーツ	2	体育グループ B	1	ニュースポーツ	3	美術グループ A	2	感光用紙を使った造形遊び	4	美術グループ B	1	感光用紙を使った造形遊び
	グループ名	人数	プログラム名																		
1	体育グループ A	2	ニュースポーツ																		
2	体育グループ B	1	ニュースポーツ																		
3	美術グループ A	2	感光用紙を使った造形遊び																		
4	美術グループ B	1	感光用紙を使った造形遊び																		
成 果	<p>本事業では、学生と児童生徒がプログラム実施を介して、豊かな交流が期待された。昨年は、教員志望者としての基本的行動が十分ではないと指摘があり、この点の改善を行った。教育実習を修了し、責任感のある学生のみ参加とした結果、高い評価を受けた。</p>																				

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川市科学館(サイパル)科学探検広場 2011 ブース参加
日時(期間)	平成23年1月8日～平成23年1月9日
場 所	旭川市科学館(サイパル)
参加人数	のべ32名(理科教育専攻化学浅川ゼミ 16名×2回)
担当者	浅川 哲弥
概 要	<p>冬休みの期間中に、子どもたちの知的な好奇心や探求心・想像力に訴える楽しく不思議な科学の実験や制作に触れることが出来る場を設けて、子どもたちの科学への興味やロマンをはぐくむことを目的として、旭川市科学館(サイパル)は、毎年1月の10日前後の土、日に科学探検広場を開設している。理科教育専攻化学教室の浅川ゼミでは、個々に毎年、3、4のサイエンスブースを公開している。今年の来場者は2日間で、1万人を超えた。</p> <p>我々のコンセプトは、子どもたちに楽しく、安全に実験をしてもらい、できあがった製品を記念として持ち帰ってもらい、付き添いの大人に実験の原理等を説明する試みをすることである。</p> <p>今年は、プラスチックの弁当箱の蓋に絵を描いて、トースターで加熱して、縮め、キーホルダーを作るブース。ジェルワックスを溶かしてキャンドルを作るブース、食用油に固めるテンプレを加えて香りのするキャンドルを作るブースの3ブースを出して、子どもたちに作り方を教え、一緒に制作を指導した。</p> <p>普段のゼミ活動では、科学探検広場の参加のためにどんな実験をしたら良いか、より安全に行うにはどうするか、という様々な観点から予備実験を行う活動を行っている。</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちやその大人の保護者とのコミュニケーションがうまくとれるようになる。 ・ 実験原理等についての理解が深まり、教材開発の方法が身につく。 ・ ボランティア活動を体験することにより、大変だがやりがいを感じる事が出来る。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	富良野市立山部小学校におけるインターンシップ (1泊2日の小学校でのゼミ合宿)
日時(期間)	平成23年10月5日・6日
場 所	富良野市立山部小学校
参加人数	毎年11～12名
担当者	高橋 亜希子
概 要	<p>ゼミの学生と共に毎年10月初めの2日間に富良野の山部小学校に行き、授業や放課後の少年団活動などで子どもと関わる活動を行っている。平成19年に当時の山部小学校の校長先生のご厚意から始まった活動であり、今年で5回目となった。山部小学校側からは教員になる学生のための「インターンシップ」という位置づけがなされている。</p> <p>山部小学校は一クラス10～27名ほどの単学級の小学校である。各学年に学生を一人から二人入れて頂き、授業の見学、採点の補助、体育や家庭科の活動を共に行う。中休みには学年全体の児童と一緒に学生が企画をしたゲームをする。放課後には担任の先生と懇談をし、少年団活動などに参加する。宿泊は山部にある「太陽の里」である。</p> <p>参加する学生は高橋ゼミの1年生から3年生である。毎年学生には好評であり、山部小学校に行きたいためゼミを選択する学生も多い。普段の授業より生き生きとした様子で子どもと関わっている。山部小学校の先生方はほとんどの方が教育大学旭川校の出身のため、後輩を見るような視点で暖かく見守っていただいている。山部小学校の児童にとっては1年に一度大学生が来て関わる機会という意味があるようである。</p>
成 果	<p>1年生にとっては初めて学校現場に関わる機会として、2年生にとっては来年の実習を見据えて、3年生にとっては教育実習の振り返りの意味を持っているようである。教員になる上での迷いを相談した学生もいた。学校現場に関わる機会を増やそうと積極的にボランティアに関わるようになるなど、参加した学生にとっては、教員を目指す上での大きな動機付けとなっている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	北海道鷹栖養護学校全体研修会講師 北海道鷹栖養護学校特別支援学校の「授業づくり」について考えるー「学びの質」を高める要素とは何か？ー
日時 (期間)	平成23年6月22日
場 所	北海道鷹栖養護学校
参加人数	約50名
担当者	大久保 賢一
概 要	<p>特別支援学校の授業作りに関して、以下のようなアウトラインで講演を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 特別支援学校の特徴 2. 授業における「個別性」のバリエーション 3. 「教えたこと」≠「学んだこと」 4. 「改善」につなげるための「評価」の在り方 5. 行動を理解するための基本的枠組み 6. 授業改善チェックリスト 7. 授業改善を重ね、どのような生徒に育てればいいのか？ 8. 社会で求められる力 9. 「手厚すぎる支援」を見直しましょう！ 10. 「スモールステップ」や「順序性」にこだわりすぎるのはやめましょう！ 11. 子ども同士の関わり合いを見直しましょう！
成 果	実践における基本的プロセスについて改めて振り返ることができたという感想が得られた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	北海道士別市療育講演会 発達障害の子どもの「問題行動」を考えるーABA（応用行動分析）を通して子どもを知ろうー
日時（期間）	平成23年9月27日
場 所	士別市民文化センター
参加人数	約120名
担当者	大久保 賢一
概 要	<p>地域の学校教員、福祉職員、保護者を対象として、問題行動への対応、適切な行動の指導方法などをテーマとした行動マネジメントに関する講義を2時間程度行った。講義のアウトラインは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもが「やってくれない」原因を考えましょう 2. 子どもが何かした「後」の対応の重要性 3. 子どもの行動が起こりやすくなる時、起こりにくくなる時 4. 罰的な対応の問題点と副作用 5. 問題行動の理解と対応の基本 6. 子どもができないことを適切に援助しましょう 7. 子どもができないことは「分けて」教えましょう 8. 子どもを褒めるための工夫をしましょう
成 果	<p>発達障害のある子どもたちの一見理解できないように思える行動の「意味」を理解でき、日々の対応を振り返ることができたなどの感想が得られた。また、スモールステップ原則として子どもに寄り添うことの大切さ、子どもを褒めることの大切さを改めて確認することができたという感想なども得ることができた。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	北海道特別支援教育研究協議会 道北地区研究大会・東川大会 講演 社会参加と自立を促す授業改善ープラス「その先」に必要なことー
日時 (期間)	平成23年7月29日
場 所	北海道東川養護学校
参加人数	約200名
担当者	大久保 賢一
概 要	<p>地域の特別支援学校の教員を主な対象として、社会参加と自立を見据えた「授業作り」に関する講義を2時間程度行った。講義のアウトラインは以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学習の基本的枠組み 2. 我々は色々な体験をABCのセットで学習している 3. 学びのABC (ハトも英単語を学べる！) 4. 「学び」が成立するための条件 5. 改善を繰り返し、どのような授業を目指せばいいのか？ 6. 援助やヒントの種類と系統性 7. ICF (International Classification of Functioning、 Disability and Health) 8. 「支援付き」でも経験を広げ、学びを育むことができる 9. 「経験不足」を軽減した「その先」に必要なこと
成 果	アンケート調査の結果、参加者全員から肯定的な評価が得られた。障害のある子どもに対する「手厚い支援」が、それを良いと思いついでいる支援者側の意図に反し、かえって子どもの自立と自発性と試行錯誤の機会を奪っていることに気づいたという感想が得られた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	“おとなの学校”（主催：旭川市市民活動交流センターCoCoDe） 第3回 「北海道だからできる、エネルギーの地産地消？」
日時（期間）	平成23年6月11日
場 所	旭川市市民活動交流センターCoCoDe
参加人数	17名
担当者	角 一典
概 要	旭川 NPO サポートセンターが、旭川市市民活動交流センターの指定管理者となり、主催事業として、月1回程度の成人向け市民講座を企画、第3回の講師として、昨今話題となっている再生可能エネルギーの概説、再生可能エネルギーの道内における導入の状況および将来の可能性について講演した。
成 果	<p>後日、旭川 NPO サポートセンターより、参加者のアンケート結果（17名中14名が回答）が送付されてきた。以下その概要を示す。</p> <p>①本日の講義は参考になりましたか とても参考になった 12 部分的に参考になった 2</p> <p>②講師の説明はいかがでしたか わかりやすかった 13 普通 1</p> <p><自由回答></p> <ul style="list-style-type: none"> ・（内容が）現生活で直面しているので良かったです。 ・興味深い話題をわかりやすく説明していただきありがとうございました。 ・原発問題が起きて、エネルギー源について考えています。理中を負う企業と一般市民とどう折り合いをつけられるのか、考えるチャンスももらいました。節電に努力します。 ・気になっていながら本日のテーマはこのような機会がなければ接することが少ないので、参加でき有意義なものになりました。 ・生活を見直します。 ・ちょっと自分（講師）の考えが強くて偏った点が気になった。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	ふるさと少年少女環境教室 (岩見沢市)
日時 (期間)	平成24年1月13日
場 所	岩見沢市市民会館・文化センター まなみーる
参加人数	本学学生6名 (社会調査実習受講者) 小学生40人 (予定)
担当者	角 一典
概 要	<p>本企画は、岩見沢市環境部主催の小学生向け講座であり、小学校5.6年生を対象に、「高めよう環境・省エネで温室効果ガス削減」をテーマとして、岩見沢市内で取り組まれている環境に関わる諸事業について、現地視察なども交えて学習するとともに、最後にその成果を参加した小学生自身が発表するというプログラムになっている。</p> <p>本学学生は、本年度の社会調査実習におけるテーマである、岩見沢市における雪冷熱の利用について、その調査結果を小学生たちに紹介することと、小学生たちの発表をサポートする役割を担う。</p>
成 果	事業が未実施のため成果に関する記述は割愛する。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	環境・エネルギーセミナーin 岩見沢 2012
日時 (期間)	平成24年1月24日
場 所	社会福祉法人クピド・フェア 2F ラララホール
参加人数	一般市民 100 名 (予定)
担当者	角 一典
概 要	<p>本事業は、岩見沢市雪氷エネルギークラスター活用検討会が主催して行われるセミナーで、NEDO の新エネルギー等非営利活動促進事業の補助を受けている。</p> <p>本年度は、「新エネルギー・省エネルギーを推進して岩見沢に住もう！」をテーマとして、講演・市内小学生による学習成果報告・事例報告等が行われる。</p> <p>担当者は、本年度、社会調査実習において岩見沢市における冷熱エネルギーによるまちづくりをテーマとして学生と調査を行い、調査に赴いた岩見沢市の担当者からの依頼を受け、本年度の調査結果について、岩見沢市民へ報告する主旨の事例報告を担当する。</p>
成 果	本事業は現在未実施のため、成果についての記述は割愛する。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	あさひかわ食育セミナー 実践！！今日から始める家庭の「食育」
日時 (期間)	平成23年11月9日
場 所	旭川市市民活動交流センターC o C o D e
参加人数	幼児・小学生の保護者等40名
担当者	川邊 淳子
概 要	<p>食育の基本は家庭にある。現在「食育」に関する様々な取り組みが行われているが、学校や地域では食育のどのような役割を担っているのかを知ってもらい、家庭では何を行うべきなのか、また、どのように子どもたちに教えていったらよいのかを、『実践！！今日から始める家庭の「食育」』と題して、身近な家庭での実践例をお話する中で、そのポイントや留意点などについて、参加者の皆さんと一緒に考えていくセミナーの講師を担当する予定である。</p> <p>「あさひかわ食育セミナー」は、毎年複数回の講座が組み合わさって行われているものである。今年度は、8月11日実施「しょうゆもの知り博士から学ぶ！しょうゆマジックの世界を体験」、9月3日実施「健口普及公開講演会 食と歯を大切にしておもしろく」に続いて実施されるものである。主催は、旭川市保健所保健指導課栄養係である。</p>
成 果	現時点では未実施である。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	平成23年度旭川市小・中学校教育研究大会 国際理解教育研究部大会
日時(期間)	平成23年10月25日
場 所	旭川市立忠和中学校
参加人数	大学院中国人留学生3名
担当者	大橋 賢一
概 要	国際理解教育研究部が「世界の料理に親しもう」ガーナ編と題し、講師を招いて、国際理解教育部門の教員とガーナ料理を作る企画をたてたが、その中で、中国人留学生を招待して、日本人教員とともに料理をしながら日中の親睦を深めた。
成 果	小中の先生方が、実際に留学生と話をすることで、中国に対する理解を深めることができた。また、留学生についても、料理を共に作ることを通して、日本、とりわけ日本人の教師に対する理解を深めることができた。

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム-市民のための公開講座- 「家庭における事故防止と応急処置」
日時 (期間)	平成23年10月22日
場 所	HI・RO・BA (旭川市4条買物公園/まちなか交流館)
参加人数	17名
担当者	芝木 美沙子
概 要	<p>旭川市内の5大学1高専で組織する旭川ウェルビーイング・コンソーシアムと旭川市教育委員会とが連携して行っている市民向けの公開講座で、今年度は「防災・安全・健康」をテーマに5つの講座が開催されることとなった。</p> <p>上記テーマで講座開催の依頼があり、「家庭における事故防止と応急処置」という事で講座を担当する事となった。</p> <p>現在、家庭内の事故で死亡する人は年間で1万人を超え、交通事故で死亡する人よりも多くなっている。そこで、家庭内に潜む事故の危険性について考えるとともに、事故が起きた時の応急処置について、ビデオ映像等も取り入れ講演を行った。</p>
成 果	<p>講演終了後のアンケート調査では、家庭内での事故防止の方法、注意点と重要性について、意識を新たにした記述があり、効果があったと思われる。また、応急処置についても傷口への処置等、新しい知見を知る事が出来たとの記述があった。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	旭川ウェルビーイング・コンソーシアム-健康保養フォーラム- 「子どもの未来のために」
日時 (期間)	平成23年10月1日
場 所	サン・アザレア (旭川市6条通4丁目)
参加人数	42名
担当者	芝木 美沙子
概 要	<p>旭川市内の5大学1高専で組織する旭川ウェルビーイング・コンソーシアムと旭川市が連携して行っている市民向けの健康保養フォーラムで、今年度は「こどもの未来のために」というテーマで、こどもたちが【ウェルビーイング＝身体的・精神的・社会的に良好な状態】で毎日を過ごせるように、親が果たす家庭での役割・社会の環境を改めて見つめ直し、現代の課題と、これからのあり方を一緒に考える事を目的として行われた。</p> <p>昨年、市内の保育所を対象として行った「こどもの生活習慣に関する調査」の結果を元に、3名の担当者代表が、それぞれの結果を元に、こどもたちの現状と問題点について話し（芝木美沙子：こどもの生活について、田川正毅：こどもの運動・遊びについて、豊島琴恵：こどもの食育について）、コーディネーター（村田芳久）が、中心となって、会場との意見交換を行った。</p>
成 果	<p>講演終了後のアンケート調査では、素人も入っていきやすいテーマで良かった、平均的なデータをみて、自分の位置づけを実感する事が出来たなど、一定の効果はあったものと思われるが、意見交換の時間を長くしてほしいという要望もあった。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	学習支援ボランティア団体「ゆずりは」
日時 (期間)	平成 23 年 7 月 23 日～継続中 (10 月 31 日現在、毎週木・土の週 2 回実施、今後も継続予定)
場 所	旭川市北星地区センター (旭川市旭町 2 条 8 丁目)
参加人数	のべ 29 人 (教育発達専攻、国語教育専攻、英語教育専攻、社会科教育専攻、 数学教育専攻、理科教育専攻、理科教育専攻、生活・技術教育専攻、芸術・ 保健体育教育専攻)
担当者	野村 忠央
概 要	<p>英語教育専攻 2 年に在学中の学生を発起人とし、ほぼ全専攻の学生に声を掛け、旭川市内の小・中学生及び高校生に無償で学習支援を行うべく設立された。現在の日本の公教育を補うものとして学習塾や家庭教師が存在するわけだが、親の経済状況その他によって、それを享受できない児童・生徒も少なからず存在する。そのような状況を少しでも是正してしたいという気持ちの有志が集まって、このボランティアが立ち上がった。</p> <p>具体的な活動としては、週 2 回木・土の 18:00～21:00 の時間帯に旭川市北星地区センターの 1～2 教室を借り、教科は 5 教科全てを対象としている。しかし、それを塾や家庭教師のように一律に強制してやらせるのではなく (持ち物も筆記用具あるいは自習道具だけ)、当該の小・中学生及び高校生が、任意の曜日、任意の時間 (部活動や生徒会活動の時間の後など) に、学校の勉強の予習・復習や、長期休業中の課題などで勉強していてわからないことなどを、いつでも自由に質問や勉強をしに来て欲しいというスタンスで活動を行っている。</p>
成 果	<p>当初、この活動の開設に向けて、どのようなスタンスで活動するか、活動場所はどうか、どうアナウンスして市内の児童や生徒を集めるか、児童・生徒の安全面をどうか、などなどで様々な苦勞をしながら開設まで漕ぎ着けた (旭教大の学生たちの努力や苦勞を多としたい)。その過程で、様々な意味での、地域との係わり合いがあった。言うを俟たず、まず上げるべきは、学びの場を受けるために足を運んでくれている児童・生徒さんたちである。また、この活動に同意し、信頼して子供さんたちを送ってくれる保護者の方たちである。そして、学生達たちはこの活動を軌道に乗せるために地域の方々とも触れ合う機会が少なからずあった。例えば、場所を確保するために、公民館その他に足を運んだが、難しい点もあり、最終的に、北星地区センターを定期的に借りることが可能となった。また、生徒の募集に関しても、北教大周辺の中学校数校に足を運んで告知に努めた。しかし、開設当初は参加人数も非常に少なく、ショッピングセンターの掲示板をお願いしたり、地域の習い事 (少林寺拳法など) の場をお借りしたりすることにより、告知に努めた。その結果、現在は、多い時では 25 人を超す生徒さんたちが集まるようになった。これら地域の方々のご理解に感謝したい。</p> <p>また、学生たち自身も、この活動を通して様々な経験、勉強をしていると思われる。すなわち、このような活動をするためには、保護者・学校・地域の理解や協力が不可欠であるということはもちろんのこと、運営のための人員、場所、経費の確保などの活動のマネジメント、あるいは、教員を目指す彼らにとって、自分の専門教科以外の教科を教える難しさ、あるいは塾のような統一教材がない状態で、学習レベルが異なる生徒が混在している中、静謐な環境を保ちつつ活動を発展させていく困難さなどである (筆者は高校教員や塾の英語科主任なども経験しているが、そのような環境とは異なる問題点が生じる感がある)。</p> <p>筆者は彼らの定例会にも可能な限り参加するよう努めているが、その中で、彼ら学生たちは、現在の立ち上げの手探りの中、思いがけない課題や問題に直面し、それらを克服しようと努力している。筆者としても、協力できることは協力し、見守っていきたいと考えている。</p>

地域教育連携 報告シート

テーマ (事業名)	<p>学力向上支援実践プロジェクト ～旭川校による小中学校支援と確かな学力を育成するクロスオーバープログラムの共同開発～</p>
日時 (期間)	<p>平成23年10月～平成26年3月を予定 (平成23年度～平成25年度の3カ年計画)</p>
場 所	<p>旭川市立向陵小学校</p>
参加人数	<p>向陵小学校 (児童375名、教職員30名) 旭川校 (学生13名、教員6名)</p>
担当者	<p>笠井 稔雄、久保 良宏、須田 康之、古川 善夫、笠原 究、杉江 光</p>
概 要	<p>児童生徒の確かな学力を育成するためには、「授業づくり」と「学校・学級づくり」とのクロスオーバーが必要であり、その中で確かな学力を豊かな心や健康・体力と一体的に育てていくことが重要である。</p> <p>したがって、各学校においては、自校の児童生徒の学力等の実態を的確にとらえ、その原因を明らかにするとともに、学力向上に関する課題や身に付けさせたい力などを明確にした改善策を作成し、学校全体として計画的・継続的に取り組んでいくことが必要である。そしてさらに、地域全体で学校を支援する連携体制を構築し、学校や家庭・地域の実情に応じた具体的な取組を積極的に展開することが必要である。</p> <p>現在(10月)の段階では、旭川市立向陵小学校との間で、次の3つの取組を始めており、今後さらに具体化していく予定である。</p> <p>(1) 全校児童に「Q-U」検査を実施し、同校が既に行っている「NRT」(全国標準学力検査)とのクロス集計を行い、学力向上の方法を学級づくりの視点から探っている。</p> <p>(2) 同校が長年取り組んでいる全校音楽集会で、本学音楽教育専攻の学生が四部合唱を披露するとともに、本学音楽科の教員が同校に対してアドバイス等を行い、豊かな心の育成を支援している。</p> <p>(3) 確かな学力を豊かな心や健康・体力と一体的に育てるための「学校改善プラン」を協働して作成し、学校づくりを支援している。</p>
成 果	

付 属 資 料

学生ボランティア派遣事業(概要)

北海道教育大学旭川校
地域教育連携・貢献推進委員会

1 本事業のねらい

相互協力協定を締結している北海道教育大学と旭川市との協力事業の一つとして、旭川校の力を派遣要請のあった旭川市内の小・中学校に派遣することを通し、学生のボランティア意識の高教職に求められる資質能力の向上を期待するとともに、確かな学力や豊かな人間性などの育成指し、児童生徒一人一人に応じたきめ細やかな教育活動を支援することにより、地域社会への貢献と旭川校の実践的教育研究の充実を図る。

* 指導の補助者(assistant)としての派遣である。

2 事業開始

2005(平成17)年(後期 12月)

* 当初、3年計画で実施。その後、事業の成果に鑑み継続実施し、現在に至っている。

3 活動内容

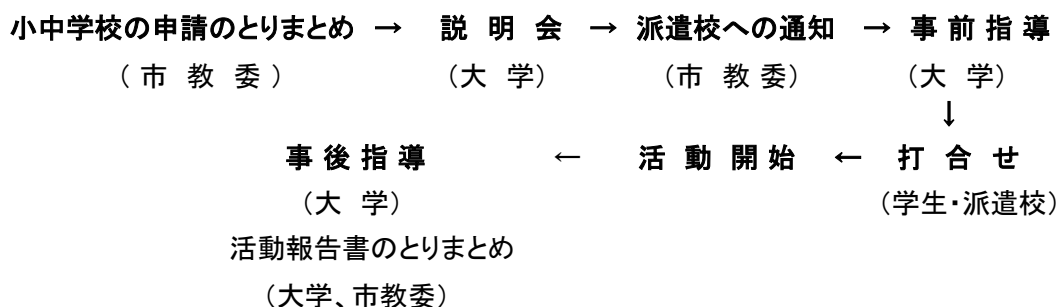
少年団活動や部活動を除く、教育課程内の教育活動(学習指導、特別支援学級支援等)

4 学生派遣までの過程等

(1) 1年を前・後期の2期に分けて実施

前期:5月～9月 後期:10月～2月

(2) 学生派遣までの流れ(前、後期共通)



(3) 活動計画書及び報告書Ⅰ・Ⅱの提出

・活動計画書:活動開始前に、学校との打合せ終了後に大学に提出

・活動報告書Ⅰ・Ⅱ:活動終了後に大学に提出

(4) 学生ボランティア派遣事業連絡協議会の開催

年度末の3月に、旭川教育委員会・旭川市小、中学校校長会・大学の三者でその年度の事全体にわたっての事業報告・協議等を行い、次年度に生かす。

5 派遣校及び派遣学生の実績数（2005年度後期 ～ 2011年度）

年 度	期	小 学 校			中 学 校			派 遣 総 数
		申請校数	派遣校数	派遣学生数	申請校数	派遣校数	派遣学生数	
2005 (平17)	後 期	28	24	97	9	6	9	106
年 度	期	小 学 校			中 学 校			派 遣 総 数
		申請校数	派遣校数	派遣学生数	申請校数	派遣校数	派遣学生数	
2006 (平成18)	前 期	20	20	70	10	7	8	78
	後 期	27	21	61	8	3	5	66
2007 (平成19)	前 期	21	17	63	5	1	3	71
	後 期	30	18	49	5	3	6	55
2008 (平成20)	前 期	24	18	54	9	2	9	63
	後 期	32	22	62	7	6	15	77
2009 (平成21)	前 期	27	17	80	8	4	11	91
	後 期	27	20	75	9	7	19	94
2010 (平成22)	前 期	19	7	27	10	7	11	38
	後 期	28	17	59	13	11	26	85
2011 (平成23)	前 期	21	12	33	9	7	10	43
	後 期	34	12	41	13	10	25	67

* 派遣学生数については、一人で複数校参加もあり、のべ人数を示す。

6 活動内容の概要（2005年度後期 ～ 2011年度）

事業開始3～4年間は、特別支援学級への参加希望が多かったが、その後は、学習指導への参加が多くなってきている。

(1) 学習指導の補助

◎ 小学校における算数や中学校における数学、英語学習の補助

- ・ 最近の傾向として、中学校の放課後学習への要請が増加している。
- ・ 小学校においては、学力の身に付いていない及び軽度発達障害を持った児童への個別支援が多い。
- ・ ミシン学習、水泳学習、スキー学習における個別補助
- ・ 生活科や総合学習で校外に出かける際の引率補助

(2) 特別支援学級の児童生徒への指導補助

- ◎ 学習及び生活全般にわたる補助
- ◎ 普通学級との交流学习の際の補助
- ◎ 運動会や学芸会の際の補助

(3) 学校行事への補助

◎ 運動会、遠足などの補助

かつては、夏季休業中に行われる【よさこい】の指導要請(前段の練習段階から)に応えたこともあった。

(4) 学校図書館運営の補助

- ◎ 学校図書館充実への補助
- ◎ 図書委員会活動への補助
- ◎ 本の読み聞かせ活動への補助

(5) 不登校傾向の児童生徒への指導補助

7 学年・男女別派遣学生実績数（2005年度後期 ～ 2011年度）

年度	期	性別	院 生	4年生	3年生	2年生	1年生	小 計
2005 (平成17)	後 期	男 子	0	2	1	6	0	9
		女 子	2	12	12	4	1	31
	計		2	14	13	10	1	40
2006 (平成18)	前 期	男 子	0	7	1	0	2	10
		女 子	0	5	5	0	0	10
	後 期	男 子	1	32	7	4	0	44
		女 子	1	27	8	4	0	40
計		2	71	21	8	2	104	
2007 (平成19)	前 期	男 子	0	7	4	4	0	15
		女 子	0	7	1	1	0	9
	後 期	男 子	1	19	17	4	0	41
		女 子	0	15	16	1	0	32
計		1	48	38	10	0	97	
2008 (平成20)	前 期	男 子	0	7	6	0	0	13
		女 子	0	29	8	4	0	41
	後 期	男 子	0	4	12	9	4	29
		女 子	0	15	23	10	1	49
計		0	55	49	23	5	132	
2009 (平成21)	前 期	男 子	1	18	13	3	3	38
		女 子	0	23	13	8	1	45
	後 期	男 子	1	19	13	2	0	35
		女 子	0	14	20	3	0	37
計		2	74	59	16	4	155	
2010 (平成22)	前 期	男 子	0	9	3	0	1	13
		女 子	0	21	0	0	0	21
	後 期	男 子	0	10	18	1	1	30
		女 子	0	10	27	0	0	37
計		0	50	48	1	2	101	
2011 (平成23)	前 期	男 子	1	15	1	0	0	17
		女 子	0	16	0	0	0	16
	後 期	男 子	1	13	6	6	0	26
		女 子	0	19	11	1	0	31
計		2	63	18	7	0	90	

8 成果と課題（2005年度後期 ～ 2011年度）

1 成 果

- (1) 大学としての主たる目的である地域貢献に寄与するとともに、教職を目指す学生にとっての実践的資質能力の習得に大きな貢献となっている。
- (2) 受け入れ学校及び旭川市教育委員会にとって、欠かすことのできない事業となっている。

2 課 題

- (1) 参加学生増への取り組み (2) 遠距離学校への派遣 (3) 同一校への継続参加

平成23年度 授業公開講座一覧

開講	講座(授業)名	担当教員	対象	期 間
前期	楷書法 I	矢野 敏文	市民一般	23.4.19~23.7.26(13回)
	環境地理学	氷見山幸夫	市民一般	23.4.12~23.7.26(15回)
	自然地理学	氷見山幸夫	市民一般	23.4.13~23.8.3(15回)
	日本文学史(古典)	伊藤 一男	市民一般	23.4.8~23.7.29(15回)
	社会学実習 I	角 一典	市民一般	23.4.11~23.7.25(15回)
	音楽史 I	菅野 道雄	市民一般	23.4.13~23.7.27(15回)
	漢文講読 I	大橋 賢一	市民一般	23.4.11~23.7.11(14回)
	有機化学	浅川 哲弥	市民一般	23.4.11~23.7.25(15回)
	造形教育 I	名達 英詔	市民一般	23.4.13~23.7.27(15回)
	物理学概論 I	阿部 修	市民一般	23.4.12~23.7.19(14回)
	中学校美術科教育法 II	南部 正人	市民一般	23.4.14~23.5.26(6回)
	社会調査論	角 一典	市民一般	23.4.11~23.7.25(15回)
後期	外国地誌	氷見山幸夫	市民一般	23.10.5~24.2.1(15回)
	日本近代文学史(近代)	片山 晴夫	市民一般	23.10.4~24.1.31(15回)
	社会学演習 II	角 一典	市民一般	23.10.3~24.2.6(15回)
	社会学概論	角 一典	市民一般	23.10.6~24.2.2(15回)
	現代と社会	角 一典 千葉 胤久 海老名 尚	市民一般	23.10.3~24.2.6(15回)
	社会科学入門	清末 尊大 角 一典 海老名 尚	市民一般	23.10.6~24.2.2(15回)
	小学校図画工作科教育法	名達 英詔 南部 正人	市民一般	23.10.4~24.1.24(15回)
	生物化学	浅川 哲弥	市民一般	23.10.3~24.2.6(15回)
	創作 II (漢字かな交じり文)	矢野 敏文	市民一般	23.10.17~24.2.6(13回)
	哲学概論	佐々木 周	市民一般	23.10.5~24.2.1(15回)
	人文科学入門	佐々木 周 ファン・ブライアン	市民一般	23.10.6~24.2.2(15回)

学 校 訪 問 等(22.10.1～23.9.30)

来校日	来校した学校(学年)	来校人数	内 容
22.10.2	私立双葉中学校(2年生)	21名	大学案内、施設見学
22.10.20	北海道旭川西高等学校(1年生)	240名	大学案内、施設見学
22.10.26	旭川市立北門中学校(3年生)	10名	大学案内、施設見学
22.11.19	留萌市立留萌中学校(3年生)	36名	大学案内、施設見学
22.12.3	北海道富良野高等学校(1年生)	190名	大学案内、施設見学
23.1.12	北海道上川高等学校(1～2年生)	15名	大学授業の受講、施設見学
23.3.28	北海道旭川東高等学校(2年生)	13名	教員志望の生徒によるグループディスカッション
23.4.14	北海道紋別高等学校(1年生)	41名	大学案内、施設見学
23.5.19	北海道遠軽高等学校(1年生)	45名	大学案内、施設見学
23.6.12	札幌及び近郊の高校生	4名	アートエデュケーションカフェ 開催地:札幌
23.6.22	旭川明成高等学校(2年生)	13名	大学案内、施設見学
23.7.21	北海道上川高等学校(2～3年生)	5名	大学授業の受講、施設見学
23.9.27	北海道留萌高等学校(1年生)	38名	大学案内、施設見学

出 前 授 業(22.10.1～23.9.30)

訪問日	訪問した学校(学年)	参加人数	内 容
23.2.9	旭川明成高等学校(1～2年生)	20名	授業テーマ「教師に必要な資質について」 派遣教員:久保良宏
23.7.22	北海道旭川西高等学校(2年生)	30名	授業テーマ「教育学分野(能力)(学習)(発達)(教育)」 派遣教員:黒谷和志
23.7.22	北海道旭川凌雲高等学校(2年生)	35名	授業テーマ「これからの時代の学校教育の在り方」 派遣教員:笠井稔雄

平成23年度 審議会等委員派遣一覧(その1)

23.10.1 現在

委嘱された審議会・委員会等	任 期
旭川市公民館運営協議会委員	21.11.01 ~ 23.10.31
旭川市住居表示等審議会委員	22.01.26 ~ 24.01.25
旭川市消費生活会議委員	22.02.25 ~ 24.02.24
旭川市市民参加推進会議委員	22.02.26 ~ 24.02.25
上川圏域障がい者が暮らしやすい地域づくり推進員(上川保健所)	22.04.01 ~ 24.03.31
旭川市都市建築部・開発審査会委員	22.04.01 ~ 24.03.31
国立大雪青少年交流の家施設業務運営委員会委員	22.04.01 ~ 24.03.31
上川総合振興局圏域子ども発達支援推進協議会委員(上川総合振興局)	22.04.01 ~ 24.03.31
旭川市社会教育委員	22.04.02 ~ 24.04.01
旭川市子ども・子育て審議会委員	22.04.07 ~ 24.06.18
理科人材コンソーシアム会議委員(道立教育研究所)	22.04.14 ~ 24.03.31
旭川市都市計画審議会委員	22.05.01 ~ 24.04.30
国際家具デザインフェア旭川開催委員会委員	22.05.11 ~ 24.03.31
旭川市特別支援教育推進委員会委員	22.06.01 ~ 24.05.31
(財)北海道生涯学習協会理事(日本学術振興会)	22.06.01 ~ 24.05.31
旭川市民生委員推薦会委員	22.06.01 ~ 25.05.31
北海道立旭川美術館協議会委員	22.06.10 ~ 24.06.09
北海道希少野生動植物保護対策検討委員会植物専門部会専門委員(北海道)	22.07.01 ~ 24.03.31
旭川市生活館運営審議会委員	22.07.07 ~ 24.07.06
旭川市博物科学館協議会委員	22.09.01 ~ 24.08.31
旭川市景観審議会委員	22.09.24 ~ 24.09.23
旭川市景観アドバイザー	22.09.24 ~ 24.09.23
北海道防災会議専門委員(北海道)	22.11.17 ~ 24.03.31
サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト推進評価委員会委員(科学技術振興機構)	23.04.01 ~ 24.03.31
市立旭川病院委員会委員	23.04.01 ~ 25.03.31
市立旭川病院委員会委員	23.04.01 ~ 25.03.31
旭川市廃棄物減量等推進審議会委員	23.04.01 ~ 25.03.31
旭川市を緑にする会副会長	23.04.01 ~ 25.03.31

平成23年度 審議会等委員派遣一覧(その2)

23.10.1 現在

委嘱された審議会・委員会等	任 期
旭川市史編集会議編集委員	23.04.01 ~ 24.03.31
旭川市環境審議会委員	23.04.06 ~ 25.04.05
旭川市図書館協議会委員	23.04.15 ~ 23.11.30
道北地方医療安全推進協議会委員(上川保健所)	23.04.15 ~ 25.03.31
学校体育実技指導資料第7集「体づくり運動」・改定協力者(文部科学省)	23.05.02 ~ 24.03.30
道営農業農村整備事業等環境情報協議委員(上川総合振興局)	23.05.13 ~ 24.03.30
旭川市適応指導教室運営委員会委員	23.06.06 ~ 24.03.31
旭川市北彩都あさひかわ開発促進期成会常任委員	23.06.27 ~ 24.05.31
旭川地域自治検討会議委員	23.07.01 ~ 23.11.30
旭川市常盤公園改修事業基本計画検討懇談会委員	23.07.01 ~ 24.02.29
旭川市民文化会館運営審議会委員	23.07.01 ~ 25.06.30
自然環境保全基礎調査植性調査に係る北海道ブロック調査会議委員(北海道)	23.07.05 ~ 24.03.31
旭川市環境美化検討会議構成員	23.07.15 ~ 25.03.31
特別支援教育の体制整備の推進における特別支援連携協議会委員(上川総合振興局)	23.07.21 ~ 24.03.31
旭川市工業技術センター委員会委員	23.07.26 ~ 25.07.25
旭川家庭裁判所委員会委員	23.08.01 ~ 25.07.31
旭川市井上靖記念館運営協議会委員	23.08.01 ~ 25.07.31
旭川食品産業支援センター運営委員	23.08.01 ~ 25.07.31
旭川市北彩都地区シンボル施設検討懇談会メンバー	23.08.26 ~ 24.03.31
旭川市国民健康保険運営協議会委員	23.09.01 ~ 25.08.31
旭川市教育委員会音楽堂等運営協議会委員委員	23.09.01 ~ 25.08.31
三浦綾子記念文学館 三浦綾子作文賞選考委員	23.09.11
旭川市情報公開・個人情報保護委員会委員	23.10.01 ~ 25.09.30
日本学術会議会員	23.10.01 ~ 27.03.31

平成23年度 講演会の講師・助言者等派遣一覧(その1)

22.10.1～23.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
「健康保養フォーラム」パネリスト(旭川市)	22.10.03	一般市民	
「実技講習会－造形」講師(室蘭市)	22.10.05	市内美術教諭	
「上川学校教育相談研究会10月研修会」講師	22.10.06	管内教職員	
「上川管内教育研究会－北部地区研究会」講師・助言者	22.10.06	各地区教職員	5名派遣
「上川管内教育研究会－中部地区研究会」講師・助言者	22.10.08	各地区教職員	8名派遣
「上川管内教育研究会－南部地区研究会」講師・助言者	22.10.13	各地区教職員	5名派遣
「学校体育研究大会・富良野大会」助言者(上川管内学校体育研究会)	22.10.08	市内保健体育教諭	2名派遣
「学力向上プラン教育フォーラム」講師(登別市)	22.10.12	教職員	
「教育研究大会－特設公開授業及び領域別分科会」助言者(北海道算数数学教育会)	22.10.14 22.10.15	教職員	2名派遣
「旭川市小・中学校教育研究会」講師・助言者	22.10.19	市内教職員	8名派遣
「全商英語スピーチコンテスト北海道予選大会」審査員(北海道高等学校長協会商業部会)	22.10.20		2名派遣
「北海道高等学校英語弁論大会道北地区大会」審査員(北海道高等学校文化連盟上川支部)	22.10.22		2名派遣
「教育研究大会旭川大会」助言者(北海道中学校理科教育研究会)	22.10.29	理科教諭	3名派遣
「上川管内高等学校国語科研究会」講師(旭川東高等学校)	22.10.29	管内国語科教諭	
「講演会」講師(旭川市生徒補導協会)	22.10.29	市内教職員	
「後志管内高等学校英語教育研究会」研修講座講師(小樽潮陵高等学校)	22.11.02	管内英語科教諭	
「上川・旭川地区中学校・高等学校英語科連絡合同研究会」講師	22.11.05	管内英語科教諭	
「みんなのエンパワーメント研修」講師(上川総合振興局)	22.11.06	保育士、幼稚園教諭、保護者 他	
「オホーツク理科教育研究会」講師・助言者	22.11.12 22.11.13	管内教職員	

平成23年度 講演会の講師・助言者等派遣一覧(その2)

22.10.1～23.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
「音楽教育研究大会」講師(全空知音楽教育連盟)	22.11.19	管内教職員	
スポーツリーダー養成講習会兼スポーツ少年団認定員養成講座」講師(上川管内スポーツ少年団)	22.11.20 22.11.21	スポーツ少年団 登録指導者	3名派遣
「算数・数学教育フォーラム」講師(宗谷教育局)	22.11.24	一般市民	
「文学講座」講師(井上靖記念館)	22.12.04 23.01.29	一般市民	2名派遣
「全校授業研究会及び公開授業研究会」助言者(鷹栖養護学校)	22.12.08 23.02.10	特別支援学校 教職員	2名派遣
「全道高等学校英語弁論大会」審査員(北海道高等学校文化連盟)	22.12.10		
「10経験者研修－教科指導等研修」講師(日高教育局)	23.01.05	教職員	
「北海道高等学校教育研究大会」教科部会講師	23.01.07	高等学校教諭	
「特別支援教育地域研修会」講師(雨竜高等養護学校)	23.01.13	同校教職員	
「小学校授業づくりフォーラムinオホーツク」講師(オホーツク教育局)	23.01.14	教育関係者、保護者	
「学校支援地域本部事業 事業成果報告会」講師(浜頓別町学校支援地域協議会)	23.02.04	地域住民	
「まなび」セミナー事業「土曜教師塾」講師(上川教育局)	23.02.19	管内教職員	2名派遣
「芸術の明日－中原悌二郎賞 40年の歩み」講師	23.02.19	一般市民	
「上川保健所母子保健担当者会議」講師	23.02.21	管内保健師	
「園内研修」講師(旭川春光台保育園)	23.02.25	同園教職員	
「地域支援力☆パワーUP!」事業講師(紋別市)	23.03.10	一般市民	
「長期療養児療養指導事業」事例検討会助言者	23.03.11	保健師 他	
「発達障がい児(者)の支援を考える道民フォーラム」コーディネーター(北海道保健福祉部)	23.03.20	一般市民	
「合唱団えぼあ」指導に係る講師	23.03.21	合唱団員	
「オホーツク管内社会教育主事・社会体育担当者等研修会」講師	23.05.26	管内教職員	

平成23年度 講演会の講師・助言者等派遣一覧(その3)

22.10.1～23.9.30

依頼された講演会の講師等	開催日	受講対象者	備考
「音楽教育研修会」講師(全空知音楽教育連盟)	23.06.14	管内教職員	
「北海道鷹栖養護学校全体研修会」講師	23.06.22	同校教職員	
「10経験者研修－共通教育」講師(胆振教育局)	23.06.29	教職員	
「北海道東川養護学校校内研修会」講師	23.07.20	同校教職員	
「職員研修」講師(東川町)	23.07.27	保育士	
「北海道特別支援教育研究協議会(道北地区東川大会)」講師・助言者	23.07.29	特別支援学校教職員	
「みんなのエンパワーメント研修」講師(上川圏域子ども発達支援研修会)	23.07.30	保育士、幼稚園教諭、保護者 他	
「幼児児童の困り感の理解と早期支援の在り方(幼小)」講師(旭川市)	23.08.05	幼稚園教諭、特別支援学級教諭 他	
「オホーツク管内高等学校家庭科教育研究会」講師	23.08.05	管内教職員	
「教職員研修講座」講師(道立教育研究所)	23.08.09	教員	
「夏季研修会」講師(旭川市教育研究会)	23.08.11	同研究会員	
「生徒指導研究協議会」講師(旭川市)	23.08.29	市内教職員	
「親子わくわく体操教室」講師(浜頓別町)	23.09.06	保護者	
「実践研究発表会」助言者(旭川教育振興会)	23.09.16	市内教職員	
「小学校親子運動教室」講師(苫前町小学校PTA)	23.09.17	同町PTA	
「教職員研修講座」講師(道立教育研究所)	23.09.27	教員	
「療育講演会」講師(士別市)	23.09.27	保育士、幼稚園教諭、保健師 他	
「子育て講座」講師(滝上町)	23.09.28	保護者	

道北における地域教育支援の取り組み
—北海道教育大学旭川校教員による事例紹介—

発行日：2011年11月23日発行

編集／発行：北海道教育大学旭川校 地域連携フォーラム実行委員会

〒070-8621 北海道旭川市北門町9丁目

北海道教育大学旭川校
